

第 2 回滋賀県産業振興審議会（3 月 20 日）における主な意見

●論点 1 どんなビジョンをつくるのか

・企業のビジョンは、参考にとどめておくべき。地域・自治体（のビジョン）は、どれだけ県民が共感でき、自分ごと化できるかが重要である。

・今までのビジョンは、言葉の羅列も多く、県民が読み込むことも正直難しかったのではないかと思う。

・見せるツールや企業の方にご意見を聞くところにも、策定と同じぐらいの労力を割いて、県民の参加型で策定していくべきではないかと感じた。

・わかりやすい、コンパクトなもの、概要版のようなものを作成するのに注力するのは賛成である。

●論点 2 「産業」の捉え方

・IoT、AI でいうと、農業は新しい分野に挑戦している。

・昭和に戻るのではなく、今の時代をどう総括して、新しい知恵、技術をどう活かせるか、産業に活用できるか。

・滋賀のビジョン、幸福のベースは、食べること、暮らすこと、学ぶことの 3 つにつけると考える。

・（フランスの）ボルドーは、ワイン製造のための第一次産業があり、博物館などワインの文化がある。観光業、宿泊業がワインといった一つのキーワードでつながっていた。農工商連携や農業を補助金で支援といった施策ではなく、ワインといった 1 つの大きなくくりの中で産業が発展できないか、そういう仕組みができないかと感じた。

・産業は、一つ一つが対立してあるわけではない。地方創生でも、農地も含めて決して産業が対立しているものではない。それぞれが出口を求めているわけではなく、密接に絡み合って、ウインウインの関係であり、そういったビジョンであってほしい。

・産業の捉え方は、今までの第一次産業、第二次産業、第三次産業といった学術的な捉え方でなく、また、国の所管でなく、それを越えた滋賀なりのモデルができると素晴らしいと思う。

・産業を違う視点（①滋賀県を市場としてみる産業、②滋賀県を拠点として海外に出る産業）で分類している。そうしたときに、農業、林業をどっちでみるか。

・県外、海外でビジネスをすると捉えるのか、また、県内で部局をまたいで、第一次産業、第二次産業、第三次産業がうまくつながり、滋賀でビジネスをするのか。ここをどう捉えるかで、産業振興の仕方がまったく変わってくると思われる。

- 1 ●論点3 ビジョンの期間 および 論点4 基本理念・目指す姿
- 2 ・企業理念は、創業以来一切変わっていない。変えるものではないと思っている。
- 3 ・滋賀県のビジョンは、10年と言わず、何年も変えなくてもいいようなビジョンがつけられ
- 4 るといい。「滋賀県といえばこうである」と謳えればよいと考える。
- 5 ・2030年、10年の期間は適当ではないかと考える。
- 6 ・基本理念、変わる滋賀は、県内の人と共有するものとして理解した。外に向けたキャッ
- 7 チフレーズがあるとわかりやすく、イメージが湧きやすい。その中心が琵琶湖であると思
- 8 う。産業や交通をはじめ、琵琶湖を回って形成されている。外に向けた発信のキーワード
- 9 が必要ではないか。
- 10 ・2030年のSDGsを中心とした理念を具体化できないか。
- 11
- 12 ●論点5 産業振興の基本的方向
- 13 ・既存の仕組みは、既存の企業、産業のためにあると感じることは多々ある。今あるスター
- 14 トアップにより仕組みがあると感じたことはないのが事実である。
- 15 ・産業は、外貨を稼ぐ、経済循環を行うことも大切であるが、県全体のビジョンとしては
- 16 裾野をつくっていく、非経済価値も経済価値につながる。また、そこからNPOの活動と企
- 17 業がつながり、ヒントを得て新たなサービスなどをつくっていく。
- 18 ・滋賀県の産業構造は、他県と比べて非常にバランスが取れているのではないかと。第二次
- 19 産業に偏っているわけでもなく、第一次産業から第三次産業までバランスの良さを感じる。
- 20 ・そのバランスの良さを生かしていく。いろんな情報がこの地域に集まる、活動するなら
- 21 滋賀がやりやすい、コミュニティやエコシステムを構築していくことが、産業振興の次の
- 22 ステージで求められるのではないかと。
- 23 ・京都では京都経済センターができたと聞いている。起業、開業したいを様々な団体がサ
- 24 ポートする仕組みが必要であり、京都リサーチパークもそうしたところだと聞いており、
- 25 密接に絡み合う仕組みづくりができないかと思っている。
- 26 ・京都経済センターでの様々な会議に携わらせてもらっている。企業が育ったことも良か
- 27 ったが、1社が新しく立ち上がると業種の枠を超えて、みんなでサポートし合う仕組みが
- 28 できたことが一番良かったと言っている。10年間やり続けると信頼関係もでき、仕組みと
- 29 して成り立ってくる。この10年間、関係者が活動する中で連携していく仕組みが構築でき
- 30 ればと思う。
- 31 ・世界に出やすいように、県内で産業が栄えるようにプラットフォームをつくるのが行政
- 32 の仕事である。
- 33 ・行政は、企業等がビジネスしやすい、仕組みづくりの構築が本業と思う。
- 34